

献体遺体使用の臨床医学研究

課題名：人工股関節術後における軟部組織の役割の解明

研究責任者：東北大学 整形外科学分野 教授 相澤 俊峰

1. 研究目的

高齢化社会に伴い人工股関節の手術を受ける患者さんは年々増加しています。一般的に股関節は脱臼しにくい関節ですが、人工股関節になると術後に脱臼することがあります。脱臼を起こす要因としては、人工関節の機種や設置角度不良などが挙げられています。しかし、股関節周囲の筋肉や靭帯といった軟部組織の影響が近年言われています。しかし、股関節周囲の軟部組織が人工股関節術後の安定性にどの程度関与しているか、十分に明らかにされていません。

2. 研究内容

この研究では人工股関節を設置した後に関節内へ造影剤を注射して、レントゲン透視で脱臼するまでの軟部組織の動きを観察します。人工股関節術後の軟部組織の動態を把握することができれば、人工股関節の安定性を高めるための有用な情報を得ることが出来ると考えられます。